

除核凍結卵子から クローン作成成功

山梨大

遺伝情報を含む核を取り除いて冷凍保存したマウスの卵子から、クローンを作ることに世界で初めて成功したと、山梨大医学部と理化学研究所発生・再生科学総合研究センター（神戸市中央区）が18日発表した。再生医療に必要な、体細胞クローン胚^{はい}由来のES細胞の開発につながる技術として期待される。

人のES細胞を作る

には多くの卵子が必要だが、卵子の提供者が「遺伝子が不正利用されるのでは」と不安感を抱き、協力が得られにくいと懸念されていた。

山梨大医学部の平田修司教授（産婦人科学）は「今回の技術が実用化されれば、不安感の軽減につながる」と話す。将来は、婦人科疾患で卵巣を摘出した患者から同意を得た上で、未受精卵子採取

する計画だ。

平田教授によると、マウスの卵子から遺伝情報を取り除き、冷凍保存。その後、解凍した卵子からクローンを作る実験を行った。クローンマウスが生まれた確率は0・36%だった。通常の4%よりも低かったが、今後5年程度、動物実験を続け、改善を目指すという。

【小林悠太】